

令和8年度 市長との対話集会（口名田地区） 議事要旨

日 時：令和8年9月18日（金）19時00分～20時40分

場 所：口名田コミュニティセンター

参加者：25名

テーマ：「サバ缶、宇宙へ行く」のその先へ ～小浜の挑戦から考える学びとブランドづくり～

1 参加者からの主な意見

（1）観光・PR

- ・小浜の観光シンボルとなる情報発信が不足しているので、例えば「ちりとてちん」ゆかりの女性落語の全国大会等のPR強化や、SNSを活用した名所（ひまわり畑等）の発信による集客向上を図る。

（2）地域拠点・遊休施設

- ・口名田に「道の駅」の誘致および「梅千代会館」の活用方法について、地域に一任し有効活用できる仕組みを構築できないか。

（3）観光インフラ整備

- ・国道162号線沿い（コンビニ周辺）へのツーリング用休憩所の設置、南川沿いのサイクリングロード整備、および小浜インター周辺に大規模サービスエリアを設置することで集客を図る。

（4）農業・関係人口

- ・口名田の特産品（谷田部ねぎ、お茶等）の後継者育成が課題。西相生の「くぼたん米舞俱樂部」が行う農業活動において、都会の人を巻き込み（田植えや稲刈りの手伝い等）、関係人口を拡大する仕組みを作れると良い。

（5）教育・先端技術

- ・小学校の統合を見据え、電気自動車や自動運転を活用した先進的なスクールバスの送迎を導入してはどうか。また、AIを利用した最先端学習環境の整備が必要。
- ・中学生の海外留学を通じた異文化学習の機会拡充。

（6）河川空間の活用

- ・南川を利用した「川下り」など、親子連れや観光客が安全で快適に楽しめる水辺環境の整備・活用。

（7）交通弱者対策

- ・免許返納後の高齢者の移動手段として、オンデマンド自動運転サービスの導入をモデルケースとして実施する。

（8）広域観光ルート化

- ・エンゼルラインだけでなく広域基幹林道から甲ヶ崎、小浜公園、海望山へと繋がる周遊ルートを整備し、海望山の展望台へのアクセス改善と合わせて、キャンプ場として活用する。

(9) 歴史・文化観光

- ・従来の寺社仏閣巡りだけでなく、若狭武田氏や戦国大名（織田・豊臣・明智・朝倉など）といった「歴史上の人物」にフォーカスしたストーリー性のある観光資源の掘り起こしが必要。

2 市長からの主な回答

(1) 教育ブランド化・国際交流

- ・小浜の「探究学習」は全国的に高く評価されている。中学生の海外留学挑戦を支援するとともに、海外からの受け入れ（ホームステイ・ファームステイ等）を通じた双方向の交流推進が出来るが良い。

(2) 道の駅・地域拠点

- ・新幹線開業等のタイミングを見据え、口名田地区に道の駅機能を持つ場所を確保するアイデアは面白い。また、既存の「道の駅若狭おばま」（ETC2.0 活用等）を拡充し、市内の滞在時間を延ばす仕掛けづくりを検討していく。

(3) 広報・PR戦略

- ・市民と行政が協働して「SNS の分析会」を実施するなど、ターゲットを絞った効果的な情報発信体制を構築していけると良い。

(4) 観光インフラ・ルート化

- ・エンゼルラインや海望山等を「点」ではなく「線（ルート）」で結び、回遊性を高める仕掛けづくりについて、県とも協議していく。また、南川沿いのサイクリング・ジョギングコースは、草刈り等で地域の協力も得ながら実施できると良い。

(5) 河川活用

- ・南川の「川下り等」のハード資源の活用について、まずは現地確認をしたうえで検討していきたい。

(6) 農業・関係人口

- ・農業体験やファンクラブ的な仕組みを通じて、関係人口を増やしていけると面白い。

(7) 自動運転・交通

- ・交通量が少ない地方の利点を活かし、スクールバスの自動運転やライドシェア（相乗り）の先進的モデルケースについて、国等へ提案していきたい。

(8) 歴史観光

- ・人物にフォーカスした歴史観光のPRの視点は、大河ドラマ等への誘致に繋がる可能性もあり、検討していきたい。

(9) 長期的なまちづくり

- ・新幹線駅開業（20～25 年後）を見据え、自動運転などの先端技術に市民と共に挑戦し、それを対外的に発信することで、若者の定住や企業誘致に繋げる戦略をまちづくりの中に入れていきたい。